

金澤醫科大學理學的診療科

(主任小池助教授)

## ツ皮膚反應陽性ト體溫, 理學的並ニ レ的所見ノ相互關係ニ就テ

(本編ノ要旨ハ第32回北陸醫學會ニ於テ講演セシモノナリ)

醫學博士 松 田 治 郎

(昭和8年5月15日受附)

### 第一章 緒 言

ツ皮膚反應ハ結核殊ニ小兒期ノ結核ニ屢々應用セラル、診斷法ナリ。然レドモ諸學者ノ研究ノ結果現今ニ於テハ其ノ價值著シク狭小セラレ、1, 2歳ノ小兒ニ於テハ頗ル重要ナル診斷法タルヲ失ハズト雖モ、3, 4歳ニ至リテハ既ニ其ノ價值低下シ假令陽性ナリトモ其ノ判斷ニ注意ス可ク、5, 6歳以上ニ於テハ陽性ノ意義極メテ少ク強陽性ノ時ノミ活動性結核ヲ疑フ可ク、又熱性病ニ於テハ反應頻度著シク低下スルモノナルニ拘ラズ猶モ強陽性ニ反應スルハ結核性ナル事ヲ推定セシムルニ足ル、更ニ年齡ノ長ズルニ從ヒ漸次其ノ價值ヲ失ヒ、反應陽性ナルモノハ既往ニ於ケル個體ノ結核感染ヲ指示スルニ過ギズシテ、病變ノ活動性乃至治癒如何ニ無關係ナリ、只其ノ陰性ナル事ハ個體ガ解剖學的意義ニ於テ結核症ノ存在ヲ否定スル確證トシテ意義アルモノナリ。然ルニレ診斷學ノ發達ハ結核性變化ノ狀態ヲ比較ノ正確ニ明示シ得可ク、殊ニ小兒結核ノ研究ニ幾多嶄新ナル知見ヲ與フルニ至レリ。

今日一般ニ肺結核殊ニ小兒期ノ結核ニ於テハ理學的診斷法トレ検査ヲ併用スル事ハ最モ理想的ニシテ、ツ反應検査ヲ要セズト唱ヘラル、ニ至レリ。

余等ハ昭和6年金澤市内小學校並ニ幼稚園兒童ニ際シツ皮膚反應(ピルケー氏)、體溫測定、胸部ノ理學的並ニレ検査(特ニ撮影)ヲ行ヘリ。就中ツ反應陽性者ニ就キ之等ノ相互關係ニ就キ考察ヲ試ミ、聊カ興味アル成績ヲ得タルニヨリ之ヲ左ニ記載セントス。

### 第二章 検査材料及方法

前編記載ノ如シ。而シテ本編ニ於テハツ反應陽性者243名ニ就キ考察ヲ試ミタリ。

### 第三章 ツ反應, 體溫, 理學的並ニレ的所見ノ相互關係ニ就テ

(1) ツ反應陽性程度ト熱ノ有無トノ關係

ツ反應陽性者ハ243名ニシテ其ノ程度ハ第1表ノ如シ。

又ツ反應陽性ニシテ有熱(37.0度以上)ナルモノ57名ナリ。今ツ反應陽性者ヲ其ノ程度ニヨ

リ分類シ熱ノ有無トノ關係ヲ觀察スル時ハ第2表ノ如シ。

第 1 表

員數 ツ反應	計	名	比
+	190	32.4	11.2
++	36	6.1	2.1
+++	17	2.9	1.0
計	243	41.4	

第 2 表

體溫	ツ反應	+(比)	++(比)	+++ (比)	計	%(比)
有熱		43(1)	9(1)	5(1)	57	23.5(1)
無熱		147(3.4)	27(3)	12(2.4)	186	76.5(3.3)
	計	190	36	17	243	

即チツ反應陽性ニシテ無熱ノモノハ有熱ノモノ、3.3倍ニ達ス。而シテツ反應弱陽性(+)ニシテ無熱ノモノ最モ多ク、最強陽性(+++)ニシテ有熱ノモノ最モ少ク、其ノ比ハツ反應弱キニ從ツテ大ナリ。

(2) ツ反應陽性程度ト胸部理學の所見トノ關係

ツ反應陽性者242名(1名缺)中胸部ノ理學の所見ヲ認ムル者98名(242名ニ對シ40.5%)ニシテ、即チ第3表ノ如シ。

第 3 表

	打診	聽診	打聽	計
理學的變化	27	38 (中氣管枝 炎7)	33(13.8%) (中 tbc 6)	98(40.5%)

而シテ打診上ノ變化ハ主トシテ「クルツ」ナルモノニシテ、聽診上ノ變化ハ多クハ局部的ニ呼氣延長、呼吸音粗裂又ハ減弱ニシテ何レモ變化極メテ輕度ニテ結核性病變ノ存在ヲ想像セシムルニ足ラズ。只打診及ビ聽診上ノ變化ヲ共ニ認ムル者ハ僅カニ内部ノ病的機轉ノ存在ヲ疑ハシム。其他乾性「ラツセル」ヲ聽診セル者4例、氣管枝炎性ノ散在性水泡音ヲ認メシ者3例ニシテ、之等ハ寧ロ急性氣管枝炎ト認ム可ク、而シテ局部的ニ打診上ノ變化ト共ニ小水泡音又ハ捻髮音ヲ聽診シ結核性ト確診シ得タル者僅カニ6例ニシテ胸部被檢者(242名)ノ2.5%ニ相當ス。

今ツ反應陽性程度ト理學の所見トヲ比較スル時ハ第4表ノ如シ。

然レドモ理學の所見ガ上述ノ如ク薄弱ナルヲ以テ此ノ兩者ノ間ニ興味アル關係ヲ見出シ難シ。

(3) ツ反應陽性程度ト胸腔内ノ所見トノ關係

ツ反應陽性者242名(1名缺)ヲ其ノ程度ニヨリテ分類シ、 $\perp$ 寫眞像ニヨリ胸腔内病的變化ノ有無ヲ觀察スレバ第5表ノ如シ。

第 5 表

ツ反應 レ變	+(比)	++(比)	++(比)	計	%(比)
有	146(3.3)	33(11)	14(7)	193	79.8(4)
無	44(1)	3(1)	2(1)	49	20.2(1)
計	190	36	16	242	

第 4 表

ツ反應	+	++	+++	計
理學變化	69	21	8	98

即チツ反應陽性ニシテレ的變化ヲ認ムルモノハ其ノ變化ヲ認メザルモノ、4倍ナリ。且ツ其ノ比ハツ反應強陽性ニ最大ニシテ(11:1)，弱陽性者ニ最小(3.3:1)ナリ。又ツ反應最強及ビ強陽性ニシテレ變化ヲ認メザル者最モ少クシテ僅カニ5例2.1%ニ過ギズ。之レヨリ察スル時ハツ反應ハ小兒ニ於テハ強陽性以上ニ於テ相當意義アル可シ。

(4) ツ反應陽性，有熱，レ的變化アル者

合計51名ニシテ第6表ノ如シ。

第 6 表

ツ 反 應	+	++	+++	計
有熱及レ變化	37	9	5	51

今第6表ヲ第2表ト比較スル時ハツ反應陽性，有熱ニシテレ的變化ヲ認メザル者ハ弱陽性者ニ於テ僅カニ6例ヲ認ムルノミ。

此ノ51例ヲ悉ク結核感染者ト認ムル時ハ此ノ數ハ胸部被檢者(242名)ノ21.1%，總被檢者(587名)ノ8.7%ニシテ，又理學的所見ニヨリ結核性ト確診セシ者ハ僅カニ6例ニシテ，此ノ數ハ胸部被檢者ノ2.5%，總被檢者ノ1.0%ニ相當ス。

#### 第四章 總 括

(1) ツ反應陽性程度ハ弱陽性32.4%，強陽性6.1%，最強陽性2.9%ニシテ其ノ比ハ11.2:2.1:1ナリ。

(2) ツ反應陽性ニシテ有熱ノ者ハ23.5%，無熱ノ者ハ76.5%ニシテ其ノ比ハ1:3.3ナリ，且ツ其ノ比ハ反應ノ弱キニ從ツテ大ナリ。

(3) ツ反應陽性ニシテ胸部ノ理學的變化ヲ認ムル者40.5%ヲ見ルモ，其ノ多クハ極メテ輕微ニシテ殆ンド顧慮ノ價值ナク，確實ニ結核性ト想像シ得タルモノ僅カニ2.5%ニ過ギズ，此ノ數ハ總被檢者ノ1.0%ニ相當ス。從ツテ小兒結核ノ診査ニ理學的檢査ハ價值少キモノト認ム。

(4) ツ反應陽性ニシテレ變化ヲ認ムル者ハ79.8%ニシテ，レ變化ヲ認メザル者ノ4倍ニ

相當ス。且ツレ變化ノ有無ハツ反應強陽性者ニ於テハ 11:1, 最強陽性者ニ 7:1, 弱陽性ニ 3.3:1 ニシテ, 小兒ニ於テハツ反應ハ強陽性以上ニ於テハ相當意義アルモノト認ム。

(5) ツ反應陽性, 有熱ニシテレ變化ヲ認ムルモノハ胸部被檢者ノ 21.1%, 總被檢者ノ 8.7%ナリ。

小池先生ノ御校閱ヲ謝ス。